

第8号 20円

昭和42年4月25日

内容

施設拡充計画のため
募金開始…………… 2

大学共同セミナー…………… 4

チュービンゲン大学
学生室内楽団来日…………… 6

心の故郷セミナー・
ハウス…………… 7

利用状況…………… 8

セミナー・ハウス

SEMINAR HOUSE NEWS

発行

財団法人 大学セミナー・ハウス

《所在地》
東京都八王子市下柚木
電話 0426-42-4041-2
《東京事務所》
東京都中央区日本橋本町3の3
三井銀行本町支店ビル3階
電話 東京(270)4431
振替口座 東京 74590番

編集・発行人 飯田宗一郎
製作 中央公論事業出版

私が実存哲学にひかれるのは、哲学を求めるときに自分というものが中心的な課題であって、そこから出発して、自分がそれによって本当の意味で生き得るような思想を求めるところに、その理由があると思う。現代人は素直に実存哲学に接し、それに入っていくようであるが、我々が哲学を求めた時代はまだ実存哲学はまだ出ていないころで、一九世紀の末から二〇世紀にかけて開花した、科学的立場を非常に強調するような哲学が主流で、実存哲学を生みだした哲学思想とはむしろ対立的なものだったから、実存哲学へ行くには相当のまわり道をした。それはちょうど二〇世紀のはじめから半ばにかけての哲学自身の発展をそのままにたどり、終極的には実存哲学に到達したのだといえる。そのように様々の経緯を経たので、実存思想も広い全体的な見地から考える気持になって、実存一元論とでもいうか、狭義の実存哲学は哲学全体の一つの立場としてそのうちに含まれると考える。しかしそれではなぜ実存哲学を特に尊重するかというと、さまざまな人間のあり方のなかで最終的にすべての人間のあり方をなさない、それの意味を与えるものが実存であるからで、その意味でまたそれにもっとも親近性を感じ、もっとも近い考え方になるというわけである。

人間のあり方を考えた場合、最も根本的なあり方として次の三通りのあり方が考えられる。一つは、生命としてのあり方。これは簡単に言えば、生まれたままの心身的存在としての自然的欲求を何かのかたちで満足させるべく活動するような人間のあり方をいう。もう一つのあり方は、精神としてのあり方と考えられる。生命として、要するに、日常的な意味でのきわめて普通の幸福を追究する人間といえる。そしてその自然的欲求が過不足なく満たされる時、人

は普通の意味での幸福感をもつ。ところが、こういう人間のあり方だけでは生きがいを感じられない。その時生きがいを与えるものとして、我々は昔から、理想あるいは理念というものを考えた。そこに現実の生活を超えて、しかも現実の生活に対して何かしら生きがいを与えてくれるものを求め、それを実現すべく活動する精神としてのあり方がある。この精神と



お茶の水女子大学長 藤田 健治

生命・精神・実存

——人間として生きる意味——

この精神的人間のあり方が生みだす文化の内容を考えた場合、学問や芸術や道徳などの活動等が考えられるが、同じ精神の活動でも、学問や芸術と道徳の場合では、生命としての人間のあり方に対する関係が違うのではないかと考えられる。例えば、真理や美の追究にしろあるいはそういうものの実現にしろそれらの精神活動は、我々の生命の活動を基礎にしながら、一面ではそういうものからなされた理念をたて、その理念によつ

て、我々の生命としてのあり方を意義づけている。つまり、生命としての人間のあり方は精神としてのあり方を土台づけ、逆に精神としてのあり方は、生命としてのあり方を意味づけるといえる。ところで道徳的活動の場合も一応それと同様だが多少違う面がある。それは自らの道徳的理念から、生命としての人間のあり方に対して、その正当か否かを反省せずにはいないのである。つまり道徳的立場に立つ限りは、生命としての人間

のあり方に対して、批判的対決的な関係にあると考えられる。さらに道徳的立場は、人間を本当の意味において、根本的に価値づけるものであるといえる。価値、つまり真善美はどれも人間にとってねうちがあるもので、価値として並べるだけではそこに甲乙がつけられない。しかし人間との関係を見ると、自らが優先されるかが明らかになる。それは人間自身のあり方とその相互関係の調和的秩序を現わす価値こそ道徳的価値であるから、そういう意味で人間を中心とする限り、道徳的価値が、人間にとって一番先に、あるいは最も基本的に充実さるべき価値である。したがって、道徳が精神としてのあり方のうちで、一番根柢的なものである。

では、人間のあり方のうちでその道徳的あり方が最終的なあり方だろうか。人間を本当の意味で根本的に意味づけるものが道徳的な立場として、その道徳的立場を非常に厳密にとるとすべての人間が善と悪とにわかれてしまい、善人は人間として立派であるが、悪人はそうではないとして退けられる。道徳的立場は是非善悪の区別のない許さないからである。しかし人間というものを本当に尊重する道徳的立場が、このように人間の全体を包容することの出来ないもので、はたしていいのだろうか。

(以下次頁下段へつづく)

施設拡充計画のため

一億五、〇〇〇万円募金開始

講堂、図書館、セミナー室、宿舍等の新増築
大学セミナー・ハウス発展へ財界人の協力

【後援会常任委員会の発足】

セミナー・ハウス設立の目的が大学側に順次浸透して、利用状況は好調に進展し、一年有余の成果は施設の拡充を必要とするまでに達した。驚歎すべき成長である。

このような発展は予想したことでもあったが、現実の姿となつてみると今更ながらに、セミナー・ハウスの構想は現在の大学教育に欠けているものを充たすばかりでなく、国立私立大学共同の歩調をもって大学教育を改善し、推進さ

せるという積極的役割がいかに大きいか判明したのである。

大学側の積極的な利用に対して、当初の建設を支援された財界は、もう一度募金をしてセミナー・ハウスの目的が十分に達成されるように今回の拡充計画を支持してくれることになった。募金の成果がこのような短期間にあらわれたことは稀なことに違いない。

建設後援会は当初からの継続として設置されているのであるが、身分上の変化により二、三名の交替があったけれども、左記の長老諸賢が役員に就任され、第二回の常任委員会が昭和四十二年二月二日午後二時から経団連会館で開催され、今後の募金運動の方法について協議した。当日の出席者は佐藤三井銀行会長初め東京瓦斯、東洋レーヨン、日本化薬、経団連、それに大学側は一橋大学、中央大学、東京教育大学、茅館長、飯田専務理事であった。

◇代表常任委員
八幡製鉄社長 稲山 嘉寛
東京瓦斯社長 本田 弘敏
住友化学工業会長 土井 正治
東洋レーヨン会長 田代 茂樹

◇常任委員

経団連会長 石坂 泰三
ブリヂストン

タイヤ会長 石橋正二郎
富士銀行頭取 岩佐 凱実

中部電力会長 井上 五郎
ソニー社長 井深 大

三菱重工工業会長 藤井 深造
日本化薬社長 原 安三郎

三菱銀行頭取 田実 渉
富士製鉄社長 永野 重雄

経団連副会長 植村甲午郎
日立製作所会長 倉田 主税

第一生命保険会長 矢野 一郎
東京商工会議所会頭

足立 正
名古屋商工会議所会頭

鈴木 亨市
募金の対象は主として経済界で

あるが、広く一般社会人からの寄付も仰ぐこととし、個人寄付は一口の単位を左記の如くしたので、大学関係者は勿論、大学教育の責任を負うて下さる方々のご支援を要望したい。

個人寄付 A 三、〇〇〇円
B 五、〇〇〇円
C 一〇、〇〇〇円
ただし口数・金額は制限いたしません。

(一面より)

ここで、そういう立場を超えて、善悪をもって裁かない立場と、善悪の基準をたてず、人間は一人一人がそれぞれにかけがえない値うちを持つていて、すべての人間存在は存在することによって、それぞれかけがえのなさを持つているとする考え方である。普遍的な基準で決めてしまいうわけにはいかないという意味で、平均化できない、純粋な、単独な個人を認めた時、そこに実存としての人間のあり方がうかがいあがってくる。

現代の実存哲学、あるいは実存主義のうちでも、神のある実存主義と神なき実存主義があるわけだから、すべての実存という観念を宗教的な実存というふうにかえることは異論があるだろうが、悪人だろうが善人だろうが、すべての人間がそれぞれのかげがえのなさを持つているとして、絶対的な愛のうちには包容する宗教的立場がより広くより根柢的であり、それが実存の原型ではないだろうか、私は考える。そして、精神のあり方のうちで一番根柢的であると思われた道徳的なあり方の背後に、こうした宗教的な意味における人間のあり方、実存があつてはじめて道徳そのものも本当の意味をもちうるのではなからうか。なぜなら、道徳はきびしい基準で裁く立場であり、またそうなければなら

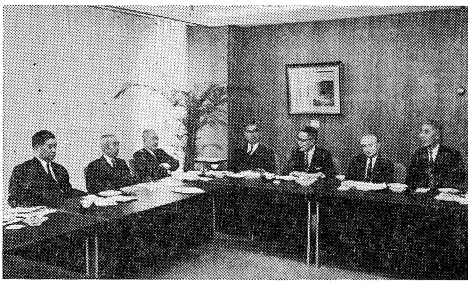
ない立場であるが、ただその背後に、善悪を越えた人間のひとりびとりのかけがえのないあり方を考へているかどうか、単なる厳格主義に終るか、それともほんとうに人間の心情にもついたものになるかの境目があると考えられるからである。とすれば、実存の立場こそ、実は、道徳的立場にその背後から意味づけていられる立場になる。

生命と精神との関係と同様に、実存もまた、精神の立場を意味づけていられる、あるいは裏づけていられ、逆に精神は実存を土台づけているといえる。

そういう意味で、人間の根本的なあり方には、生命、精神、実存としてのあり方があがるが、しかし意味づけの点からいうと、結局は本当に人間をして生きる意味を与える、あるいは生きがいを感じさせる究極の立場はやはり、実存の立場であり、最終的にすべての人間のあり方を意味づけるのが実存としてのあり方であると考えられる。

したがって、実存の思想の重大さは明らかであると思われ、その意味で実存哲学が哲学の究極の立場を現わすといえる。こういうのが、ほぼ私の現在考へていっている考えである。

(第八回大学共同セミナーのゲスト講演の概要・文責在編集者)



〈後援会常任委員会〉 42年 2月21日
左より花村、佐藤、升本、茅、増田、三輪、飯田

■拡充資金寄付者名第一回報告■

講堂兼体育館・図書館・セミナー室・宿舎等新增築計画のために

三,000円	日本女子大学教授 大原 恭子殿	二,000円	世田谷区楼上水 磯 見二郎殿
六〇〇	立教大学 四宮 ゼミ殿	三,000	分子遺伝学代表 渡辺 格殿
一,000	芝浦工科大学 石川 ゼミ殿	一,100	京都市左京区 吉岡 書店殿
一,000	立教大学教授 四宮 和夫殿	10,000	文京区原町 中川 章殿
二,000	東京大学教授 本間 啓殿	4,000	川崎市生田 徳永 勇雄殿
10,000	武蔵工業大学 友の 会殿	五〇〇	明治学院大学 増田 ゼミ殿
一,000	立教大学学生 飯田 恵殿	一,000	東京大学 岡 ゼミ殿
一,500	明治学院大学 増田 ゼミ殿	二,000	東京都立大学 清水 ゼミ殿
二,000	東京大学教授 辻 清明殿	五〇〇	東京工業大学 山崎 俊雄殿
一,000	日本大学教授 岩井 肇殿	一,000	電気通信大学学生 大塚 博殿
三,000	Pプロダクション殿	五〇〇	成蹊大学 田中 益夫殿
二,000	早稲田大学 鶴岡 ゼミ殿	五〇〇	成蹊大学 広野 ゼミ殿
二,000	弓町本郷教会殿	五〇〇	立教大学 岡本 定次殿
五〇〇	北区中里町 西田 保殿	一,000	共立女子大学教授 河盛 好蔵殿
五,000	日本キリスト教会修養会殿	一,000	事例研究会 一橋大学体育会殿
七〇〇	早稲田大学 永山 ゼミ殿	一,000	立川短期大学 吉田 ゼミ殿
一,000	明治学院大学 黒川 ゼミ殿	一,000	日本基督教婦人矯風会殿
二,000	日本大学講師 川西 登殿	一,000	生活共同組合 大島 ゼミ殿
六〇〇	立教大学助教 佐藤誠三郎殿	三,000	会計検査院審議室殿
10,000	東京工業大学教授 益子 正巳殿	一,000	共立女子大学 友部 ゼミ殿
10,000	三井物産 管理職セミナー殿	10,000	チュービンゲン大学交歓学生一同殿
一,000	早稲田大学 村松 ゼミ殿	六〇〇	横浜国立大学 伊藤 ゼミ殿
一,000	武蔵野美術大学 寺田 ゼミ殿	二,500	武蔵工業大学校友会執行委員会殿
一,000	大学セミナー・ハウス 土田 百合殿	一,000	東邦大学教授 本吉 修二殿
五〇〇	明治学院大学 三和 ゼミ殿	一,000	東京都立大学教授 竹内 幹敏殿
五,000	東京工業大学教授 阿武 芳朗殿	一,100	青山学院大学 守永 ゼミ殿
二,000	成蹊大学 日比 芳仁殿	10,000	東京大学教授 山本 達郎殿
一,000	豊島区目白 磯野 誠一殿	一,500	東京都立大学 岡 ゼミ殿
一〇〇	北区王子本町 栄 隆男殿	五〇〇	早稲田大学奉仕団国際学生殿
五,000	三菱レイヨン 研修 会殿	三,000	日本聖書神学 鎌田 澄枝殿
五,000	川崎市登戸 協阪 広治殿	二,000	第八回共同セミナー一同殿
		五,000	千代田区九段南 小川 信子殿
			伊藤 真代殿

利用料金の改訂

昭和四二年四月より実施

食費・室料合せて二〇〇円の値上げ

学生相手のセミナー・ハウスであるから、料金は安いほどよい。どうしても低廉な料金で、最高の学問的サービスができるか、みんな考えてねばならない大切な問題である。

諸物価の値上げのなかで、セミナー・ハウスだけが、丘の上で例外的な経済生活を営むことはできない。食事がうまいことは若い人たちの何よりの楽しみである。食事の内容を現在よりおとしたくはない。宿舎の清潔なことが、セミナー室の簡素高貴なことが、セミナー

1・ハウスの特長である。やがてこの六月には講堂兼体育館と図書館の新築が完成すると、利用者の便宜はさらに快適となる。食事代として五〇円、宿泊代として五〇円の値上げは、何人も賛成してくれるに違いない。これだけの値上げでは到底経常費の不足は補うことはできそうもないので、一方では会員校の年額会費を五万円上げたり、一般社会からの寄付金も仰ぐなど、納得のできる民主的な経営を創造していきたい。

国民宿舎が一泊二食で九〇〇円を一、〇〇〇円に、国民休暇村が同様に一、〇五〇円を一、二〇〇円に値上げしたことを考えれば、内容のある食事とセミナー室、講堂、本館などの施設を持つセミナー・ハウスが一泊三食で九五〇円というのが高いということにはなるまいというのが理事会の判断である。

改訂料金

一泊三食つき

旧料金

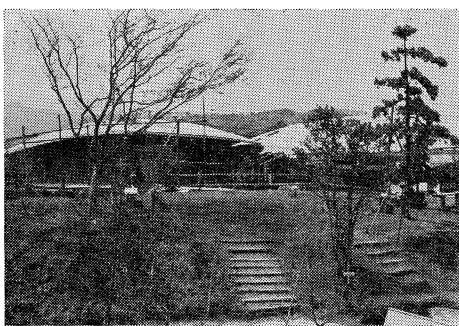
新料金

学生 八五〇円 九五〇円

教官一、〇〇〇円 一、一〇〇円

会員校以外の場合の施設の使用

料も若干の値上げを行なった。



姿を現わした講堂兼体育館(右)と図書館(左)

主題 「実存思想と現代」

——現代に生きるために——

現代に生きるために、学生諸君に大いに自己を思索してほしいための実存思想に関するセミナーを開催した。いづこで、どんな生き方をするにしても、真に自己自身であることは大変むずかしいことである。そのことのむずかしさと苦しさを実存の陣営はしきりに説いているが、若い学生達が単に常識的な人生論に終わるのでなく、学問を通して生きる意味を探求し、そして実存の学者に問いかけを求めらば、このセミナーは大学生生活のなかで最も高貴な経験となるに違いない。そのような期待をかけてこのセミナーを企画し、早大の川原教授を委員長に神奈川大学の信太教授、東京女子大の小川助教が委員として企画し、準備に多くの時間をかけただけあって、すばらしい成果をあげた。学生側の反響も大きく、申込者も三五〇名を突破したの

で二回に分けて行なった。お蔭で企画者の喜びと苦労は倍加した。第七回の方には比較的高年次の学生が多く大学生生活最後を飾るセミナーとなり、なかには開館記念セミナー以来回数連続出席の学生もあり、閉講式には思い出深い感想を述べてくれた。

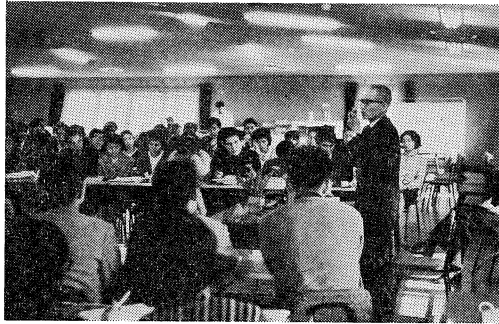
第八回は比較的低学年の学生を対象としたので、今後の大学生活における思索的修練の上に多くの収穫が与えられた。彼らはこの日から新しい歩みを始めた。

第七回には東北大、信州大、静岡大などからの参加もあり、共同

全体講義で質問に答える榎山欽四郎先生

共同セミナー

全体講義で質問に答える榎山欽四郎先生



- 【全体講義】
 - A 実存思想の成立 原 佑氏
 - B 実存の思想 早稲田大学教授 榎山欽四郎氏
- 〈ゲスト〉
 - 早稲田大学教授 松浪信三郎氏
 - 作家 佐古純一郎氏
- 【セクシオン別指導著作】
 - A ヒューマニズムの超克 早稲田大学教授 川原栄峰氏
 - B 主体性の問題 東京女子大学助教 小川圭治氏
 - C 実存と神の問題 信州大学教授 吉村善夫氏
 - D ニヒリズムの問題 神奈川大学教授 信太正三氏

セミナーの成長振りを示した。

このセミナーに参加した同じ顔ぶれの先生と学生が年四回くらい継続して、セミナーをやったら、将来の哲学者はこの丘から生まれるに違いない。是非やりたいものだというのが指導教授全員の感想であった。その先生方の熱意に敬意を表わしたいとともに、大学と学生を思う教授たちは、かくのごときものであってほしい。

第七回大学共同セミナー

【昭和四二年一月一三・一四・一五日】



「実存思想と現代」セミナーの企画者として

小川 圭治

昨年一〇月に、信太正三、川原栄峰両先生とともに、このセミナーを企画したときは、「これはきつと評判がいいだろう」と、自画自讃めいたことを話し合った。それはニーチェがベスト・セラーになったり、三木清が非常な売行きをしめしたり、出版界では、思想ブームがささやかればじめた頃であった。このプランが、あまり迷わずにスムーズにできたというのも、それがなんらかの点で今日の問題意識とふれ合うところがあったからだろう。苦勞することは必要だが、無理矢理につくり出したものによいものはない。その意味でも、講義、ゲスト講演、セクシオン指導の先生方も、われわれの意中の方々がほとんどそのまま引き受けて下さったこのプランは、いいプランだったのである。それにしても三五〇人を超える学生諸君が四〇余の大学から参加を申込み、一月と三月の二回も、実存思想で夜を徹して語り合うことになるとは予想しなかった。実存は、多数の支持を必要としない。ブームとか流行とかは、実存とは矛盾

する。しかし、しっかりとした応答があったということは、企画者にとってはよるこぼしいことであった。大変だったが、やり甲斐があったのである。

一月のセミナーと三月のセミナーでは参加者も違っていったし、各セクシオンは、それぞれ別々の思想家をテーマとしたのだから、内容的にもずいぶんヴァライアティがあったことと思う。それらを一括して論じるのは実存的ではない。しかし私の印象では、そこに一つの共通の焦点があったと思う。それは、実存するということが、それぞれの形で主体的に、つまり課題としてうけとめられたという点である。時代や社会がどのような自己に目ざめ、そこに立ちかえって主体的自覚的に生きるということが、今日のわれわれの課題としてうけとめられたのである。実存の思想について多少とも関心が高まっているとは考えていたが、実際に工学部、理学部から家政科に至る学生がそれをどのよう

第7・8回大学



セクション演習・信太正三先生

【参加学生】

一三二名(うち女子六八名)
早大(二五)、

E技術と人間
慶応義塾大
学教授
三雲夏生氏
F実存主義と
マルクス主
義
専修大学教
授
市倉宏祐氏
G実存と現代
政治
東洋大学教
授
飯島宗享氏

■第八回大学共同セミナー

【昭和四二年三月二六・
二七・二八日】

【全体講義】

実存の思想

早稲田大学教授

檀山欽四郎氏

(ゲスト)

お茶の水女子大学学長

藤田健治氏
作家
椎名麟三氏

【セクション別指導者】

Aヒューマニズムの超克

A一

早稲田大学教授 川原栄峰氏

A二

成蹊大学助教授 上妻 精氏

B主体性の問題

B一

東京女子大学助教授

東京女子大(一七)、日本女子大
(一一)、津田塾大(九)、東大(八)、
武蔵工大(六)、上智大(四)、東
工大(四)、青山学院大(四)、東
外大(三)、東京都立大(三)、慶
大(三)、中央大(三)、静岡大
(三)、信州大(三)、東洋大(三)、
神奈川大(三)、明大(二)、法政
大(二)、東北大(二)、国際商科
大(二)、一橋大、東京農工大、
お茶の水大、横浜国大、日大、明
治学院大、成蹊大、共立女子大、
埼玉大、立正大、東京薬大、実践
女子大各一名

小川圭治氏
B二
明治大学講師
岩永達郎氏

C良心と実存

二松学舎大学教授

佐古純一郎氏

Dニヒリズムの問題

神奈川大学教授 信太正三氏

E実存主義とマルクス主義

専修大学教授 市倉宏祐氏

【七・八回運営委員会】

委員長

早稲田大学教授 川原栄峰氏

委員

東京大学教授 小城正雄氏

東京女子大学助教授 小川圭治氏

東京女子大学助教授 根岸愛子氏

【参加学生】

一二七名(うち女子六六名)

早大(三〇)、日本女子大(一六)、

青山学院大(一一)、東京女子大

(二〇)、東大(八)、上智大(七)、

東外大(五)、慶応(五)、東京都立

大(四)、共立女子大(四)、津田

塾大(三)、学習院大(三)、東京

教育大(二)、中大(二)、日大

(二)、明治学院大(二)、東工大、

東京農工大、お茶の水大、法政大、

立教大、武蔵工大、成蹊大、国際基

督科大、神奈川大、和光大、東京

理科大、埼玉大、清泉女子大各一

名。

疑問がなかったわけではない。そして、確かに「実存とは、生きることはそんなにむずかしいことなのか」という歎声もきかれたが、それをも越えて主体的に生きるといふことの意義と現実が多少とも明確にうけとめられたと思う。今日の大学問題やひろく教育の危機といわれるものの背後に、このような人間形成の問題があることは明らかである。それを正面からと心呼びさまし、それなりの役割をはたしたのだと思う。もちろん、この重荷ともいえる課題をもって、それぞれの大学、学部に戻されたとき、それがどのように実現されるかが一番大切な点である。そしてそれは必ずしもたやすいことではない。このセミナーの一番大切な点が、参加した学生一人一人の手にゆだねられているのである。

第二回目の私のセクションで、キリスト教の問題が大きな部分を占めて論じられたのも印象深かった。キルケゴールの『死に至る病』はキリスト教ぬきに読むこともできるし、従来しばしばそのように読まれてきた。それにもかかわらず、どうして話があつたのだろうか。私がキリスト者で、復活節の礼拝からセミナーにかけつけたということも一つの外的理由であつたかも知れない。しかし私は、キリスト教が今日の日本の学生、知識人にとって、関心をもつという程でなくても、除外してしまえない気になる存在なのだと思つた。そしてこのことは、何よりも、実存ということがたんなる知識の対象として、また、文学的鑑賞の対象としてうけとめられたのではないことを示している。実存思想のセミナーは、けつしてキリスト教の伝道集会ではなかつたが、ある場合にはそのような有様を呈したのも、問題がそこまで行きついたということなのだろう。それはこのセミナーにふさわしいことであつたと思う。

その後セミナーで知り会つた学生が私宅に訪れたとき、そのなかの一人は「あれほど別れ難く感じようになるとは思いませんでした」と語つた。このような感慨をすべの参加者がもつたわけではないだろう。しかしこのように語る学生がいるということは、このセミナーで、一つの人間としての出会いが、対話が行なわれたということを示していると思う。今日の東京の生活、とくにそのなかでの学生生活、それは夢のない味気ないものになり勝つた。しかし八王子の丘陵に集まつた学生諸君の間に、このような出会いと対話が成立したというのは素晴らしいことではないか。

私もそのような出会いに仲間入りできた者の一人として、あの三日間を、暖い春の日ざの思いで思い出すであらう。



本場のオーケストラ
を披露

チュービンゲン大学 学生室内楽団来日

= 日本人学生と交歓 =

話を交わし、国際的雰囲気の本館にあふれた。

同夜は来日初日の疲労も忘れ、約二時間ラウンジで本格的室内音楽を聴かせてくれた。東大の杉山好氏は音楽愛好家であり、ドイツ語学者であり、こうした機会にはまたとない役を果たしてくれた。東京女子大の小川圭治、上智大の鈴木皇両氏もドイツ留学の経験により、彼らとの交流につとめられ

た。晩餐会も音楽会も実に楽しいものであった。

八日は早朝から彼らは練習を始め、そのエネルギーに驚いたが、我々はそれをゆつくり聴くことができた。桜六本を記念樹として植え、日本人学生の見送りをうけて一時セミナー・ハウスを出発した。東大安田講堂、上野の文化会館それから名古屋、京都での演奏会が彼等の日程である。

和服姿の学者来訪

早春の春日和、昭和四二年二月二日夫人ご同伴の二人の学者が珍しく和服姿でセミナー・ハウスを訪ねてくれた。ご案内はセミナー・ハウスのことならいつでもお手伝いにて下さる山内恭彦博士夫妻、そして同行者は朝永振一郎博士夫妻である。朝永先生は東京教育大学長のごとき、財団法人大学セミナー・ハウス設立発起人となつて法人設立に協力下さったお一人であり、今もお評議員である。

格別の用事がなくとも、このようなお客さんが、ふらつとお訪ねしてくることは有難い。どなたでも結構、ご来訪を歓迎します。これからの新緑のシーズン、ピクニックはセミナー・ハウスへお出かけ下さい。楽しいこと請合ひ。

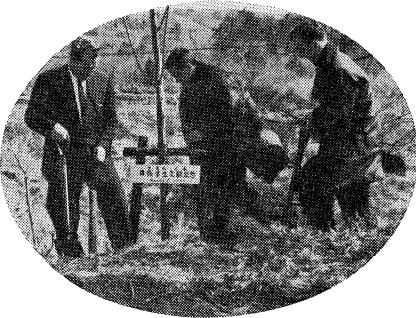
朝永、山内両博士夫妻
(本館玄関にて)



朝永、山内両博士夫妻
(本館玄関にて)

セミナー・ハウスに和服姿が現われることは珍しい。うらかな早春の多摩丘陵の風景に和服姿もまたよく調和がとれ、構内を散策しながらセミナー室や宿舎を観察され、数々のセミナーが行なわれている活況をご覧になり、セミナー・ハウスの前途を祝福して下さった。

日本側の歓迎委員長松田智雄東京大学教授も同行され、昭和四二年三月七日午後四時に本館到着。一行は常任指揮者ヘルムート・カールジェール氏夫妻と第一バイオリン五名、第二バイオリン四名、ピオラ三名、チェロ三名、コントラバス一名、トランペット独奏者一名の計一九名。指揮者が高等教育審議官である外は全部学生で、哲学、神学、理学、法学、医学の各学部学生であつて、音楽学科の学生はわずかに二名である。



四時から日本人学生五〇名を交えて歓迎茶会を催し、日独学生によるにぎやかな交歓パーティとなった。この会は東大の西村秀夫氏の歓迎挨拶に始まり、松田教授からチュービンゲン大学学生訪日目的を紹介され、上智大の飯尾君と東大の木下さんが学生代表とし

予告

▼講堂兼体育館・図書館
落成式

昭和四二年七月四日
午前一時 落成式
正午 祝賀午餐会
午後二時 記念講演

▼新入生歓迎セミナー

【期日】五月三・四・五日
【主題】「大学と人間」
講演 学問をする姿勢
東京大学教授 堀米庸三氏

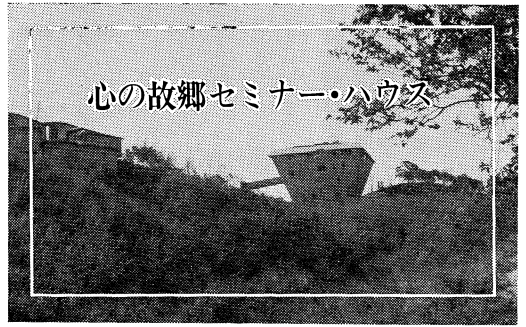
大学生活の意味
東京大学教授 江上不二夫氏

【目的】 受験生活から解放されて入学したが自分が本当に何をやってたよいか漠然とした不安を感じている新入生に対し、人生における学問の位置と意義について、また自分の立っている場所の歴史的、社会的、精神的位置と可能性について、総合的な展望を与える。

▼講堂落成記念セミナー

【期日】 七月七・八・九日
【主題】「世界的に見たヨーロッパと日本」
全体講義

一橋大学長 増田四郎氏
京都大学教授 会田雄次氏
【参加学生】 全国の国公立大学学生一五〇名
【セクシィ指導】 国公私立大学教授・助教授七名



その一
東京女子大学 岡本千紗子

学内外で催されたセミナーはそれが集中的である故に、多くの力を与えられた。私には、八王子のセミナー・ハウスで開かれた第二回の大学セミナーが印象深い。大塚久雄先生、高島善哉先生を講師に、都内の大学から八十余名集まり、熱気に溢れた三日間であった。一〇人ずつのセクションに分かれてからは、講演の枠を出て、各人の個人的な問題を持ち寄っての話し合いに発展した。私は社会科学を専攻していないというハンデ

イキャップも感じないで、学生であるという共通の地盤に立って、新しい人々の前に、素直に自分をさらけ出し、以後の学生生活を支えてゆく自信を持つことができたと。

「女子大生は……、寮生は……」という、微温的無気力を笑う外からの批判のまなざし、自らもそれを認める弱々しい肯定のうなづき。

それらを反省した点で、このセミナーは、自分の学生生活に対する最高の刺激となったのである。(東京女子大学「学報」一八四号より抜粋)

その二
日本女子大学 浦山 和子

数カ月振りに訪れたセミナー・ハウスのくさび形の建物が見えた時、何か自分の故郷に帰ってきたような感慨を覚えた。宿舎の窓を広く開けて、胸一杯に空気を吸い込んだ時、何とも心が安まる思いがした。ああ、自分は随分セミナー・ハウスを好きになってしまったのだなとつくづく思った。

その三
早稲田大学 永山 孝信

セミナー・ハウスの生活については、現在のままですべて満足しました。設備やサービスがいくら豪華なものに変わったとしても、私が今回のセミナーで得た満足は得られる種類のものではありません。榎山先生、信太先生と自己の能力の及ぶかぎり論じ合い、また隣り合わせて食事をいただけただけには、心のかりの悪魔を住まわせなければ、とでもとも、自己を維持しがたく、喜びの涙に毎日むせんでいたであろうと確信しております。我々故郷を持たない東京人の故郷として、いかに不快で虚偽に満ちた世界であろうとも、純な心の故郷として、これからもセミナー・ハウスを折にふれて訪れたいと願うものであります。

信頼と希望の丘

——セミナー・ハウスを讀える——

市川 肇

暮れなずむ多摩の丘の辺
吐息なく 母のごとたたずむ
やまなみ

温かい灯がある
一つ、二つ、三つ……

光つつむ多摩の丘の辺
萌え黄にむせるくぬぎの
やまなみ

温かい心がある
聖らかな心がある

一つ、二つ、三つ……

肩組んで声高く唱う

ふくよかなかおりに充ちた

その道を歩む時

人々のよき心が

そこここにのぞきほほえむ

澄みきった風の流れる

その道を歩む時

人々のよき語いが

ひとりでに生まれ

はぐくまれてゆく

誠実に生きる人々が

その険しい歩みの途次に
人をもしれぬ寂しさに暮れる時
楽しみを思い出させてくれる
いこいの泉

そこはまた
未来につづく若さがあふれ
建設のつち音をひびかせ
金色にかがやく信頼の塔を
つみあげてゆく

大学セミナー・ハウス
大学セミナー・ハウス
雄々しく 力強く
雄々しく 力強く
永遠に灯ともせ

(埼玉大学教養学部)

利用成績

紙上紹介

(1~3月)

順位	大学別上位利用者数	人数
1	慶応大学	二四二
2	日本大学	二一六
3	都立大学	二〇三
4	東京大学	一七八
5	青山学院大学	一七六
6	中央大学	一七二
7	早稲田大学	一六六
8	東京工業大学	一五五
9	日本女子大学	九六
10	明治学院大学	九一
11	法政大学	七七

セミナー・ハウス
利用状況

◇一月

玉虫化学教育研究会 玉虫 文一
 東京大学教育学部学生ゼミナール
 準備会
 独協大学写真部
 成蹊大学助教 川口 浩
 慶応義塾大学講師 池井 優
 上智大学助教 鈴木 皇
 日本女子大学講師 本間鶴千代
 慶応義塾大学講師 池井 優
 上智大学助教 J・ピタウ
 東京経済大学講師 向井 武文
 東京女子大学講師 渡辺 信夫
 東京神学大学助教 佐藤 敏夫
 東京工業大学助教 益子 正己
 事例研究会 樋口 又男
 日本ルーテル神大教授 岸 千年
 営業管理者講習会 日興証券
 一橋大学助教 田内 幸一
 一橋大学体育会リーダーズ・キャ
 ンプ 川口 智久
 都立川短期大学講師 吉田 幸弘
 明治学院大学助教 重田 信一
 日本女子大学助教 石橋 秀雄

◇二月

管理職研修セミナー 三井物産
 早稲田大学講師 吉永 昭男
 東京教育大学助教 磯野 誠一
 中央大学助教 木川統一郎
 青山学院大学講師 二宮 理意
 社員研修会 三菱レイヨン
 専修大学教授 小林 健吾

文部省特定研究分子遺伝セミナー
 立正大学助教 磯 晃二郎
 形態形成分子生物学セミナー
 杉沢 新一

早稲田大学助教 内田 久雄
 日本大学助教 武田 良三
 管理職研修セミナー 染野 義信
 営業管理者講習会 三井物産
 共立薬科大学助教 日興証券
 宮本 貞一
 明治学院大学講師 山崎美貴子
 東京都立大学講師 野村 好弘
 東京都立大学助教 矢野 茂樹
 学習院大学助教 武者小路公秀
 一橋大学教育研究会
 早稲田大学助教 小杉 一雄
 片桐 邦郎
 慶応義塾大学助教 上杉正一郎
 東京経済大学助教 木村 禎司
 日本大学助教 増田 茂樹
 明治学院大学講師 吉田 裕
 明治学院大学助教 吉田 裕
 中央大学世界旅行研究会
 東京工業大学助教 永井 道雄
 徳永 勇雄
 柳沢 三郎
 拓植 明子
 高窪 良誠
 清水 誠
 一瀬 瀬康子
 玉屋
 東京大学助教 岡 義達
 井上 宇市
 富山はつ江
 永井陽之助
 谷 信一
 高窪 利一
 杉本 俊朗
 横浜国立大学助教

日本基督教団刑務所伝導委員会
 日本女子大助教 一番ヶ瀬康子
 共立女子大学助教 友部 直

東京都立大学助教 高田 清明
 小島 蒼子
 日本女子大学講師 三井物産
 管理職研修セミナー 稲垣富士男
 中央大学助教 岩井 毅
 会計検査院調査資料
 日本基督教婦人矯風会
 慶応義塾大学生協同組合
 東京外国語大助教 宮川 透
 丸山 真男
 東京大学助教 伊藤 忠彦
 横浜国立大学助教
 東京工業大学文芸部
 AFS日本協会
 立教大学キリスト教協議会
 武蔵工業大学助教 下田 弘
 岡 明
 東海大学助教 藤永 保
 東京女子大学助教 竹内 幹敏
 東京都立大学助教 横山 正彦
 東京大学助教
 東京工業大学
 武蔵工業大学
 青山学院大学助教 広瀬 謙二
 守永 誠治
 杉山 茂雄
 工藤 篁
 松本修二郎
 本吉 修二
 石川 晃弘
 原 良三
 加藤 諦三
 日興証券
 三井物産
 管理職研修セミナー
 国際学生セミナー
 早稲田奉仕団
 東京神学大学キリスト者平和の会
 徳永 勇雄

東京大学助教 西村 秀雄
 社内研修会 東洋高圧
 東京都立大学助教 岡 小天
 東京大学助教 山本 達郎
 東京都立大学助教 太田 秀通
 共立女子大学助教 松島千代野
 青山学院大学基督教青年会
 日本ウイルス学会 下条 寛人
 日本女子大助教 一番ヶ瀬康子
 早稲田大学助教 森 麟
 早稲田大学講師 浦田 賢治
 慶応義塾大学助教 小林 規威
 慶応義塾大学学生部 佐藤 豪
 土木系スウェーデン学生交歓会
 日本YWCA 今井 万里

明治学院グレゴリー・バンド
 関東生物科学生懇談会
 慶応義塾大学講師 中村 治嵩
 法政大学不動産鑑定研究会
 玉虫文一氏・長倉三郎氏・玉虫伶
 太氏・島美喜子氏・吉岡甲子郎氏・
 湊宏氏・田丸謙二氏・渡辺彰氏・
 吉村善夫氏・根岸愛子氏・櫻山欽
 四郎氏・磯見二郎氏・樋口又男氏・
 黒岩英雄氏・橋本三郎氏・田沼佑
 升氏・奥野隆寧氏・楠隆圭氏・石
 川進氏・金森晃氏・田内幸一氏・
 二宮理意氏・川瀬武志氏・有田恭
 助氏・木村禎司氏・吉田裕氏・石
 川晃弘氏・海老原孝夫氏・柳沢三
 郎氏・橋本芳一氏・岡義達氏・谷
 信一氏・友部直氏・三井愛氏・大
 野卓子氏・長野栄子氏・井上耐子
 氏・篠原喜美氏・瀬尾貞子氏・海

●ゲスト・ルーム宿泊者

専務理事ノート

老沢知恵子氏・丸山真男氏・H・
 カルゲル氏・ロイエンパーカー
 夫妻・井上良雄氏・倉松功氏・太
 田秀通氏・岡小天氏・山本達郎氏・
 松島千代野氏・萩原風子氏・佐藤
 絢乃氏・沢田祥子氏・M・ガリフ
 イス氏・木村晴雄氏・有賀寿氏・
 有賀豊三氏・D・ミッシェル氏・
 米田豊氏・ラウンドヒル氏・酒枝
 義旗氏・新井邦男氏・岩崎力氏・
 瀬川善信氏・丹下博元氏・岩田淳
 氏・渡辺彰氏。

セミナー・ハウスの周辺は緑
 一色である。美しい自然の中に
 ここだと招くように特長ある殿
 堂が立っている。私はこの丘を
 信頼と希望の丘と名づけた。
 教師と学生が一人の人間として
 出会う場所としたいからであ
 る。

新年年だから新しいグループ
 が毎日訪れる。その圧巻は一、
 ○○○名に及ぶ武蔵工大の新入
 生オリエンテーションで一〇日
 間の連続セミナーである。山田
 学長も泊り込み、学友会執行部
 員が企画運営に当られたのには
 敬服した。

これからの私の日課は募金で
 ある。多くの方々にお世話にな
 ることであらう。七月四日の落
 成式には皆さま是非おいで下さ
 い。